
魔王物語

ゴルゴダ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔王物語

【Nコード】

N1697BA

【作者名】

ゴルゴダ

【あらすじ】

人の世界のとある辺境。小さな洞穴の中に住む人外の者たちの物語。
語。

初めての小説になります。よろしくお願いします。

プロローグ

「ぷう！　ぷう！」ズリズリ……。
「ぷう！　ぷう！」ズリズリ……。

薄暗い洞穴の中、鳴き声のような物と引きずるような音が聞こえる。鳴き声と音が聞こえてくる場所には、……何と言えば良いのだろうか、水色のぷるぷると弾力の有りそうな丸い生き物が、布で出来た袋の口を結んでいる紐を自分の身体に通し、懸命に引っ張っている姿が在る。

そのぷるぷるな見た目に反し、弾力性に優れているのか、重たそうな袋を引きずる割りには、あまり紐が身体に食い込んでいない。

「ぷう！　ぷう！」ズリズリ……。
「ぷう！　ぷう！」ズリズリ……。

しかし、身体への食い込みが少ないとは言え、長い間引きずっているのだらう、疲れているように見える。

水色の生き物の顔と思われる箇所には、黒く大きな瞳と小さな口らしき物が在るが、心なしか瞳が潤んでいる……。

「ぷう……」

泣きそうだ……。

そのぷるぷるな身体を文字通り、ぷるぷると震わせている。泣くよ？　泣くよ？　と言わんばかりに震えが強くなる。

「カカカツ？」

「ぷっ？」

涙のダムが決壊する寸前に不思議な音がした。……声なのだろうか？ 水色の生き物に負けず劣らずの不思議な声である。

その声の主は、カチャカチャと音をたてながら、水色の生き物に近づいてくる。

「ぷっ！ ぷっ！」

よく分からないが、喜んでいるのだろう。先程までの泣き顔が嘘のように、元気一杯に音の主の方に向かう。

「ぷっぷっ！」

「カカカッ」

無事に二人？ は合流出来たようで喜び合っている。

合流した際に、その不思議な声の主の姿が薄暗い洞穴の中、僅かな明かりに映し出される。

背丈はかなり高い。動く柱のようだ。ボロボロのマントに身を包み、その背中には自身と同じぐらいの大きさの大剣を背負っている。質が良いのだろう。薄明かりの中でもその輝きを失っていない。

だが、その身体は普通では無いようだ。顔は白く丸みを帯びている。目や鼻などが有るべき箇所は何もなく、空洞となっている。骨だけしかないのだ。身体にも肉は無く、やはり骨が剥き出しである。それでも、本人は何の問題もないのだろう。その骨人は水色の生き物を優しく持ち上げる。

「カカッ？」

「ぷっ！」

何を言っているかは分からないが、やはり喜んではいるようだ。骨

人の不思議な声は、肉の無い口の歯が噛み合う音だった。しかし、水色の生き物とは意思の疎通が出来ているようで互いに何かを話し合っている。

話が終わったのだろう。骨人は水色の生き物を片手で抱き抱え、もう片手で布の袋を持ち上げる。そのまま、歩いて来た道に戻っていく。

暫く歩き続けると扉が見えてきた。骨人は水色の生き物をそつと地面に降ろし、空いた手で扉を押し開く。

扉の先は部屋になっていた。壁や天井が淡く光っている。部屋の中には木で出来たテーブルや椅子、棚などの家具が置かれている。先程までの薄暗い洞穴ではなく、生活感の有る空間が広がっていた。

「ぶつぶつぶー！」

と、荷物も無くなり、身軽になった水色の生き物は部屋に入るなりはしゃいでいる。テーブルに乗りたいのか、テーブルに向かってぴよんぴよん、ぶよんぶよんと飛び跳ねる。

その跳ね回る音に気付いたのか、部屋の奥の扉が開いた。

「元気一杯だね。お帰り、プリン」

「ぶつぶつ！」

奥から出て来た人物が声を掛けた瞬間、テーブルに向かって跳ねていた水色の生き物がその人物に向かって勢いよく飛び跳ねた！

「ぶつぶつ!」

「採取している時に危険な目には遭わなかった? ご苦勞様、プリン」

水色の生き物 プリンと言う名前らしい は抱きしめてもらい嬉しそうにほお擦りする。

「カカカッ」

「ケルト。プリンのお出迎えありがとう」

テーブルの上に布の袋を置いた骨人 ケルトと言う名前らしい
をプリンを撫でながら労う。

プリンを撫でている人物がこの洞穴の中の主らしい。肩まで伸ばした銀髪に、凜々しい顔立ち。ケルトに比べると頭一つ低いがそれでも高めの背丈、その身体は細身ながらしっかりと筋肉に包まれている。美青年である。が、やはり普通ではないのだろう。顔の両端にある耳は先が尖っている。人間ではないようだ。

「よし。プリンも帰って来た事だし、夕食にしよう?」

「ぶつぶつ!」

「カカッ!」

だが、普通ではないことを本人たちはやっぱり気にせず、夕食の支度に取り掛かるのであった。

???

種族 ????

職業 ????

戦術評価 330

魔術評価 1200

技術評価 260

ケルト

種族 死霊 スケルトン

職業 無し

戦術評価 120

魔術評価 45

技術評価 72

プリン

種族 魔法生物 スライム

職業 無し

戦術評価 12

魔術評価 8

技術評価 10

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1697ba/>

魔王物語

2012年1月4日10時46分発行